

生と死をつなぐケア

老いとぼけに関わるヒトの世界は、真面目で滑稽な出来事であふれています。そこから創られる介護に希望はあると思います。27年目を迎え、ふたつの宅老所とひとつの特養を運営する「よりあい」の現状とこれからの、たっぷりご報告します。

2019年
日時：8月29日(木)

神戸
会場

会場：神戸市産業振興センター
(801会議室)

(兵庫県神戸市中央区東川崎町1-8-4
*神戸ハーバーランド内)

☆JR「神戸」駅より徒歩5分

2019年
日時：8月30日(金)

大阪
会場

会場：大阪府社会福祉会館
(505会議室)

(大阪府大阪市中央区谷町7-4-15)

☆地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町6丁目」下車、
4番出口より南に250m

【講師】

(むらせ たかお)

村瀬 孝生



特別養護老人ホーム「よりあいの森」施設長。

1964年、福岡県飯塚市生まれ。東北福祉大学を業後、特別養護老人ホームに生活指導員として勤務。1996年から、「第2宅老所よりあい」所長を務める。2015年4月より現職。著書に『ほけてもいいよ』（西日本新聞社）『看取りケアの作法』（雲母書房）など多数。

10:30~16:00

プログラム
(昼食・休憩あり)

生活を共に創る — 主体を大切にするケア

キーワードは「わたしとあなた」、「生身の主体」、「わからない」、「合意」、「自由」。今日の私は、昨日の私と同じではありません。プランと標準化された介護は、お年寄りと介護者を過去に縛り付けてしまいます。介護される側もする側もイキイキしたい。お年寄りと一緒に今日を創りましょう。

作業からの脱皮 — ひとりに添うケア、集いを楽しむケア

スタッフの中心的な仕事は、お年寄りのそばに一緒にいること。一緒に美味しいお茶を飲み、一緒に食べる時間を楽しむこと。集いによる「場の力」は個別ケアを豊かにします。介護を作業にしないために大切なことは、現場裁量とスタッフの柔軟なチームプレーです。

介護を地域に還す — ひとりを支援するケア

とにかく施設に鍵をかけません。行動を抑制するために薬漬けにすることもしません。そのためには、施設から外に出て歩くお年寄りの見守りを、地域住民のひとりひとりをお願いします。その積み上げが地域ケアを創る可能性を持っています。さらに、地域ケアは労いを生むのです。

看取りケアの作法 — 暮らしの中にある死

看取りは、あくまで暮らしの延長線上にあります。スタッフは合宿しながら、その臨終を家族と共有してきました。日頃から五感をフルに活用して「体を触る介護」は、寿ぎのある死に着地します。医療からもっとも遠い場所でこそ、人間的な看取りが可能となるのです。

*受講料はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡さし上げます。

【受講料：7,000円】

*受講料は当日会場で承ります。

主催

なるほどケア塾

お問い合わせ

☎042-306-3771

〒189-0011

東京都東村山市恩多町3-39-13-101 榎窓社内

お申し込みはこちらへ Fax

Fax: 042-306-3772

<参加人数>

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>

8/29(木) 神戸
()名

8/30(金) 大阪
()名